レコード番号	地区名	開催日	大項目	小項目	質問・意見の要旨	担当課	回答等の要旨
1646	東古泉	2026/9/12	13その他	松前公園駐車場	文化センターや松前公園でイベントがあった際に、役場前駐車場にとめられなくて困る。 社会福祉協議会の北側の駐車場（松前公園駐車場）を自走式立体駐車場にできないか。	社会教育課	現在、イベント等の開催時には、松前公園の老人広場、多目的広場を臨時駐車場とするなど、可能な限り駐車スペースの確保に努めております。 御提案のありました立体駐車場の整備となると、当然ながら多額のコストが必要になります。 今後は、公共交通機関の利用推進をするとともに、実際の駐車場の利用状況、経費などを見ながら、将来的な松前公園全体の改修のタイミングに併せて、検討したいと思います。
1648	東古泉	2026/9/12	02道路・交通・建物	空き家対策	空き家となり困っている。どこに相談すればよいか。	まちづくり課	空き家の管理や活用、売却などについてお困りの場合は、松前町が令和８年10月から空家等管理活用支援法人として指定している「一般社団法人全国空き家アドバイザー協議会愛媛県松前支部」へ御相談ください。空き家の現状調査や所有者からの相談、利活用方法の提案、遠方にお住まいの所有者に代わった物件の管理など、空き家に関するさまざまな相談に対応しています。 また、空き家が老朽化し、倒壊などの危険がある場合には、解体（除却）費用の一部を補助する制度があります。補助額は、除却工事費等の5分の4以内、上限80万円です。 ただし、補助制度を利用するためには、事前に対象となる「老朽危険空家」であることの認定など、所定の手続きが必要です。利用を希望される場合は、工事を始める前に、まちづくり課住宅係へ御相談ください。
1649	東古泉	2026/9/12	10広報活動	町の情報発信	人口減をくいとめるには、町の情報発信をし続ける必要がある。部分的な発信ではなく、総合的な魅力を発信して、町民にもスポークスマンとして魅力を広めてもらうことが大事だと思う。	総務課	貴重な御意見ありがとうございます。 町として魅力の発信をSNS（LINE、インスタグラム、フェイスブック、Youtube）などを通じて行っていますが、十分ではないところです。 松前町の皆さんにもスポークスマンとして魅力を広めていただけるように、各分野のものをまとめて、松前町をトータルコーディネートで発信するような仕組みができるよう、他市町の事例などを研究してまいります。
1651	東古泉	2026/9/12	02道路・交通・建物	道路拡張	東古泉の道は自動車が入れないような道路が多い。道を広げてほしい。	まちづくり課	御指摘のとおり、東古泉地区には幅員が狭く、自動車の通行が難しい道路が複数あることは、町としても認識しております。 道路の拡幅については、沿道の土地利用や用地の確保などの課題があるため、全ての道路を自動車が通行できる幅員に広げることは困難ですが、交通量や利用状況、緊急車両の通行の可否などを踏まえ、拡幅の必要性を判断することとしております。 つきましては、地域の実情をよく御存知の区長さんを通じて、拡幅が必要な区間について、土木事業要望として取りまとめの上、町へ提出いただきますようお願いいたします。町といたしましても、いただいた要望内容を精査し、現地調査を行った上で、他の要望箇所との比較の中で優先順位を判断し、必要な対応を検討してまいります。

レコード番号	地区名	開催日	大項目	小項目	質問・意見の要旨	担当課	回答等の要旨
1652	東古泉	2026/9/12	01防災	異常気象対策	異常気象で雨が多くふったときに、長尾谷川の増水がすごい。宗意原のところで堰止めをしているからではないか。	まちづくり課 産業課 危機管理課	長尾谷川については、河川内に葦（あし）などが繁茂している箇所があり、大雨の際に水の流れを阻害し、水位の上昇や溢水につながるのではないかと地域の皆様が心配されていることはしっかりと受け止めております。 長尾谷川は愛媛県が管理する河川であることから、町から県に対し、適切な流下能力が確保されるよう、河川内の葦などの繁茂状況を確認し、必要な除草や浚渫（しゅんせつ）などを行っていただくよう、今後も引き続き要望してまいります。 また、産業課では気象庁の予報を基に大雨が予想される際、事前に長尾谷川の音井出転倒ゲートを含む農業用水路を操作されている各地域の区長（農業区長）の方々に電話連絡を行い、事前の状況に応じた堰の操作をお願いしています。今後も気象情報を迅速に確認・共有し、適切な対応に努めてまいります。 しかしながら、近年の気候変動は私たちの想定を超える可能性もあります。そのため、地域のつながりをもって、自主防災力を高め、避難を早くすることが大切です。そして、万が一災害が起きた後も、どのように協力しながら避難後の生活をしていくかの対策も大切です。行政としても、引き続き自主防災会のバックアップをしてまいります。